

一般質問発言通告書

議席番号 7番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

(○をつける)

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 実践的な防災訓練の実施と他地区の訓練との交流について

(1) 実働訓練について

- ① 6月7日の浜田市総合防災訓練において、各種協定者との訓練は、どのように行われたのか伺う。
- ② 災害発生時、各種協定に基づく物資輸送や、膨大な災害廃棄物の処理をいかに滞りなく行うかが鍵となる。災害レベルに応じた指示系統を明確にし、関係者が迷わず動けるような、より実践的な実働訓練を行うべきと考えるが、市の見解を伺う。

(2) 他地区訓練交流の促進について

- ① 他地区や他地域で実施されている先進的な訓練事例を視察・共有できる機会を設けるべきと考えるが、見解を伺う。

2. 防災人材（防災士）の育成と活動支援について

(1) 防災士取得後の継続的なフォローアップについて

- ① 浜田市は、浜田市内の防災士の人数及び氏名等は掌握されているのか伺う。
- ② 浜田市は、防災士を何人程度目指したいと考えているのか伺う。
- ③ 資格取得後の知識維持や最新の防災情報のアップデート、またスキル向上を目的とした「フォローアップ研修」を定期的に行う必要があると考えるが、市の見解を伺う。

(2) 「志縁」によるネットワーク支援について

- ① これまでの自治会等の「地縁（自主防災組織）」への支援に加え、防災士同士の横のつながり、いわゆる「志縁」のネットワーク化を支援し、力を発揮しやすい環境を整備すべきと考えるが、見解を伺う。

(3) 地域活動への参画促進について

- ① 浜田市において、自主防災組織への防災士充足率は把握されているのか伺う。
- ② 各地区の防災士が、自治会、町内会、まちづくり組織などにおいて、その専門

性を十分に発揮し、円滑に地域防災のリーダーとなれるような「環境づくり・仕組みづくり」について、市はどのように取り組まれるのか伺う。

3. 防災教育・イベントの充実について

(1) 全世代型イベントの開催について

- ① 今後の防災イベントにおいては、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が楽しみながら自然に学べる体験型・参加型の工夫を凝らすべきと考えるが、市の方針を伺う。

(2) 学校での救命講習について

- ① 小・中学校では、どの程度普通救命講習が行われているのか伺う。
- ② 学校現場においては、特に給食時などの事故を想定した場合、心肺蘇生法に加えて「異物除去法」の習得が極めて重要である。また、熱中症対応の応急措置も重要と考える。この点に重きを置いたカリキュラムについて、見解を伺う。

4. インフラ及び備蓄の最適化について

(1) 地域に合った学校備蓄の整備について

- ① 学校防災備蓄倉庫の設置はどの程度進んでいるのか伺う。
- ② 学校防災備蓄倉庫の内容はどのように管理されているのか伺う。
- ③ 避難所となる各学校の防災備蓄倉庫について、中身が形骸化していないか懸念される。地域の自主防災組織や、現場をよく知る防災士の意見をしっかりと反映させ、それぞれの地域特性（高齢化率や子どもの数など）の実態に即した内容へと充実・更新させるべきと考えるが、見解を伺う。

(2) 公園への防災機能付加について

- ① 「防災公園」を求めるものではなく、市民にとって最も身近な存在である大小さまざまな公園に、日常時はベンチ、災害時は炊き出しに使える「防災かまどベンチ」や「防災トイレ」などの機能を、順次整備していくべきと考えるが、市の方針を伺う。

(3) 中山間地域の停電対策としてＬＰガス発電機の整備について

- ① 災害時における避難所の停電対策について、現在の備えと市の見解を伺う。
- ② 災害時の非常用電源としてガソリン式発電機が多く使われているが、燃料の長期備蓄や定期的なメンテナンス、また災害時の調達には大きな課題がある。その点、施設に設置されているＬＰガス（プロパンガス）をそのまま燃料として活用できる「ＬＰガス発電機」であれば、燃料の劣化がなく、保守管理も容易と考えるが、本市避難所への導入について、市の見解を伺う。
- ③ さらに、「医療・福祉施設（保育所・児童クラブ等含む）」において、停電対策はまさに「命に直結する」最重要課題である。こうした民間施設におけるＬＰガス発電機等の停電対応設備の導入に対し、市独自の助成制度を検討すべきと考えるが、所見を伺う。